

■大橋佐平 出版経営者。50過ぎて、{博文館}設立するや次々世間を驚かし、{太陽}創刊、{当用日記}発行など、挑戦し続けた。

おおはし さへい

滑稽+人情本 1835= 越後長岡城下上田町で、材木商の渡辺又七・よせの二男に生まれる。幼名熊吉。

大塩平八郎乱 1837= 2歳:

適塾+ブソ 1838= 3歳: 母よせから実語教、百人一首を習う。

天保改革始 1841= 6歳: 私塾林忠右衛門のところで読み・書き・算盤を習う。

天保改革終 1844= 9歳: 長岡大火で父兄が復興に尽力。長岡城下町の筆頭町人の草間幸左衛門から観世流の謡曲を習う。

阿部正弘首座 1845=10歳: 前年の活躍で疲弊した兄寅吉が死去。以後、手のつけられない飢鬼大将になり、私塾に迷惑かける。

孝明天皇 1846=11歳: 儒学の大学・論語などを習う。

1848=13歳: 祖父とその友人らに連れられ信州善光寺に詣で、途中旧蹟等に感激、一人越後の海岸浪流し啓示受ける。

北斎没 1849=14歳: 長岡町の飛脚業西川屋につき、京へ赴く。ついで高野山に上り、長崎に行く。

国定忠治没 1850=15歳: 叔父の法如に従い、京を去り、伊勢・江戸を経て、長岡に帰る。

ペリー来航 1853=18歳: 黒船来航報で長岡城下がパニックとなるなか、町医川上寿碩に海外の事情を聴き、地球図見せられ嘖然。

安政大地震 1855=20歳: 長岡藩士の野口鉄弥に剣術を学ぶ。

松下村塾 1856=21歳: 長岡城下一番の大酒店ながら傾いていた三国屋の株を買ひ求め、酒造業を始める。

桜田門外変 1860=25歳: 上村松子と結婚。

生麦事件 1862=27歳:

8月18日政変 1863=28歳: 長男新太郎が生まれる。この年から大橋姓を称する。

禁門の変 1864=29歳: 母よせが死去。長岡船道の取締役として改革を断行するも、船頭らに訴えられ敗訴。

薩長同盟 1866=31歳: 二男弘造が生まれる。

明治維新 1868=33歳: 長岡藩の開戦に反対し奔走し、一時身を匿す。三男省吾が生まれる。父又七が死去。

戊辰戦争終 1869=34歳: 越後府御用掛民政所軍事方兼学事方となり、水原・新潟に勤務。上司の児島惟謙に学校建設を提案。

初の日刊新聞 1870=35歳: 辞職して長岡に帰り、演武場の建設に尽力するも、長岡藩士らの急襲で、新潟へ逃げ、会津から東京へ。

廃藩置県 1871=36歳: 再び長岡に帰り、かつて迷惑かけた私塾の師や生徒吸収する長岡小学校の設立に尽力。長女時子が誕生。

学問のすすめ 1872=37歳: 長岡洋学校(のちの長岡中学校)の設立に尽力。市中学校(町学校)と士族学校(阪上校)の合併にも尽力したが、2年後に分離独立。この頃、士族の子弟の廢刀を主張して、加藤一作らの襲撃をうけるも、逆に説得。

明治6年政変 1873=38歳: 初代長岡郵便局長となり、家業のかたわら務める。

佐賀の乱 1874=39歳: 内国通運会社長岡支店を請負い、多大の利益を挙げる。四男修策が誕生。信濃川渡船を運営するも、

初の民間工場 1875=40歳: 架橋契機に紛擾事件。長男が新潟師範学校講習所に入る。

三つの内乱 1876=41歳: 若者3人を指導し共愛社を設立するも、自ら分裂招く。長男が上京し、同人社に入る。五男幹二が誕生。

西南戦争 1877=42歳: *長岡洋学校を排斥され{大橋書房}始め、同志と長岡出版会社を設立するも対立、単独で{北越雑誌}発刊。

大久保暗殺 1878=43歳: 二男が夭折。天皇巡幸の宮内省官吏宿舎を辞退し、随員の岸田吟香・原敬ら一流の記者を歓待して新聞への興味強まる。この頃から、町人仲間から孤立する傾向が顕著となる。

沖縄県編入 1879=44歳: 訪ねてきた共愛社の3人を指導し、後の長岡商工会議所の前身の契機となる。

1880=45歳:

明治14年政変 1881=46歳: 二女幸子が誕生。内国通運会社の請負いをやめる。_{北越新聞}の創刊に加わるも排斥されて脱社し、{越佐毎日新聞}を創刊し勝利。自由民権の政治家をめざすも、穏健派の強力なライバル登場で挫折。

秩父事件 1884=49歳: 長男が結婚。「越路花月集」を出版。この年、新聞紙条例違反で禁固。仏教復興を図るべく越後・佐渡行脚、

内閣発足 1885=50歳: 初の河井継之助伝を含む「北越名士伝」出版し、全国に知られる。洋学校出の井上円了と出会い、

帝国大学始 1886=51歳: 、「{仏教新聞}を創刊し、新潟にきた村雲尼の活動を援助し感化を受けた後、上京。

国民之友始 1887=52歳: *{博文館}を創設し「日本大家論集」が大ヒット、{日本之教学}{日本之女学}{日本之商人}と次々創刊。

初の対等条約 1888=53歳: 妻、長男一家も上京。_{日本之殖産}{日本之法律}{日本之時事}などを創刊。{越佐毎日新聞}は譲渡。

帝国憲法発布 1889=54歳: 、「{日本之少年}等を刊行。{技芸百科全書}も大当たり。{万国歴史全書}ほか、{実用教育新撰百科全書}で早くも「大日本帝国憲法正解」を刊行して世間を驚愕せしめ、大宴会も実施。江戸開府三百年祭を企画する。

帝国議会始 1890=55歳: 、「{日本文学全書}などを発刊。この年、省吾を社長に、博文館刊行物を優先販売する東京堂書店が発足。

大津事件 1891=56歳: {温知叢書}{尋常小学}{幼年雑誌}などを発刊。

大本教 1892=57歳: {農業全書}などを発刊。_{北海道に製紙業を興しに赴く。教科書刊行に参画するも醜聞目にし撤退。

郡司千島探検 1893=58歳: 、「欧米を巡遊し、各国で評判となる。{帝国土庫}を発刊。上越鉄道敷設を企てる。

日清戦争始 1894=59歳: 長女に乙羽が入婿。四男が早世。_{明治文庫}などを刊行。内外通信社を設置。{日清戦争実記}を創刊。

日清戦争終 1895=60歳: 、「{太陽}{少年世界}{文芸倶楽部}などを発刊。初めて{懐中日記}を発行。

白馬会 1896=61歳: *初めて{当用日記}を発行するなど、出版界に次々と新しい分野を開き続けて、

八幡製鉄始 1897=62歳: 博文館創業十周年。

子規句歌革新 1898=63歳: 奠都三十周年祭に関わる。{中学世界}などを発刊。

アノ国産化 1900=65歳: 旧川上操六家を購入。大橋乙羽が欧米視察。

田中正造直訴 1901=66歳: 大橋乙羽が死去すると、後を追うように、_没した。

大橋図書館が起工され、2年後開館。